

平和・人権
社会・宗教
政治と暮らし
分かち合い

No.61

共に生きる

発行/〒806-0049 北九州市八幡西区穴生1-8-10 /瀬下幸弘 FAX093-622-1290

しもつき
霜
11
月
2015



川内原発再稼働阻止

鹿児島大学の学生たちの横断幕 (2面詳細)

日本漫画家協会

にしやま すずむ
西山 遼

あなたたちはまちがっています

11月の講演・集会案内

- ◆11月1日(日)三上智恵講演 商工貿易会館 …14時
「標的の村」「戦場ぬ止み」の監督。(整理券有ります-編集部)
- ◆11月3日(火)辺野古新基地と民主主義(琉球新報記者講演)
オール沖縄と連帯講演。浄土真宗極楽寺(JR若松駅前)…14時
- ◆11月14日(土)マイナンバー制度?(市説明と弁護士の話)
八幡西区コムシティこどもホール7階 300円 …14時
- ◆11月23日(月)ニッコリしようパレード(詳細5面)
下関市竹崎公園…14時 山本紀久代ギター/パレード15時
- ◆11月28日(土)キリスト者9条守りたい(西南KCC) …14時

辺野古新基地建設にストップを

「前知事による埋め立て承認を取り消した」と沖縄県の翁長知事が発表(10月13日)。辺野古の海を埋立て新基地建設が「違法」となったのです。「この取り消し判断を「支持する」と答えた県民が79・3% (沖縄タイムスと琉球放送の緊急世論調査)で、幅広い層が理解を示しました。ところが国交省は県の「取り消し」の効力を停止する暴挙に出たのです。

はたして国交省の決定そのものが認められるのでしょうか

そもそも行政不服審査法は「行政庁の公権力の行使に当たる行為」から国民の権利や利益を救済することが目的です。訴える出来るのは「国民」ですが、防衛省沖縄防衛局(國)が「二国民になります」として国交省に申し立てを行つたものです。沖縄県の意見書で、「判断権者の公正・中立という行政不服審査制度の前提が欠落しているのであり、自作自演、出来レースやプレイヤー兼ジャッジといった批判を免れ得ない」とあるのは至極当然です。年内に国と県の裁判が始まると可能性が強まっていると報じられています。もしそのようになつたとしても、これは単なる国と県の争いではなく、「平和憲法から逸脱し、米軍と行動する軍事路線の安倍政治」対「平和憲法を守り、戦争しない道を歩む国民」の闘いとなるでしょう。10月27日、政府が発表した閣議□頭了解要旨では「米国との信頼関係に悪影響を及ぼすことによる外交・防衛上の重大な損害などが生じる」と。国民との信頼関係を無視した政府の姿勢が現れています。

世界人権宣言(谷川俊太郎訳)

第10条 裁判は公正に

わたしたちには、独立した、かたよらない裁判所で、大勢のまえで、うそのない裁判を受ける権利があります。

11月11日:イチイチ祈りの会

カトリック
場所は黒崎教会小聖堂、午後7時
どなたでもお出でください。

原発再稼働を受けて (菜)

あの悲惨な福島第一原発事故から4年半しか経っていないのに、川内原発1号機が8月11日に再稼働し、そして10月15日には2号機が再稼働するとの報道…。私は直前の10月12日に鹿児島で川内原発2号機再稼働の全国反対集会があると聞き、バスに乗って一路鹿児島に向かいました。

中央駅前の広場には全国から多くの方が駆けつけ、賑わっていました。鹿児島大学の若者達の姿や東京から来た社会派アイドル「制服向上委員会」の中高生グループの歌やアピールもあり、若い人たちのハツラツとした意見に頬もしさを感じました。

集会では2009年に川内原発2号機の蒸気発生器の交換が決定されていたのに、今回30年前の旧型蒸気発生器のままで再稼働されることや、避難計画は支援の必要な方々に不十分で、地元には不安な思いがあることも訴えられていました。また霧島・桜島の火山活動による噴火や地震予知に対して想定が甘く、この鹿児島中央駅さえも飯館村と同じ60kmの距離なので、事故が起きれば鹿児島市民50万人も危険であると知られ、思わず背筋が寒くなりました。現地、川内原発正門前では断食をされながらリレーで座り込みをされているとの報告に、必死で稼働を止めたいとの訴えておられる様子が伝わってきました。

また、伊方原発から来られた方は「伊方は自然に恵まれ、住んでいる人々も素朴で人がいいのです」と言われ、過疎の現実が受け入れにつながっていると話されました。私は川内と同じ地方の痛みを感じました。

その後、天文館まで老若男女1800名の市民の方々が「再稼働反対」のアピールをして歩きました。私の周りには「広島生まれだから来たのよ」と語られた年配の方や、杖をつきながら黙々と歩いておら



社会派アイドル「制服向上委員会」の中高生グループの歌に大拍手。



大型街宣車でパレードを妨害する右翼団体。→

れる初老の方、福岡からお孫さんと新幹線で来て仲良く手をつなぎながら歩かれている方々がいました。高齢の方々が多くたのですが、ひとり一人が孫や子のために自分の世代で止めなくてはという強い気持ちで参加していました。

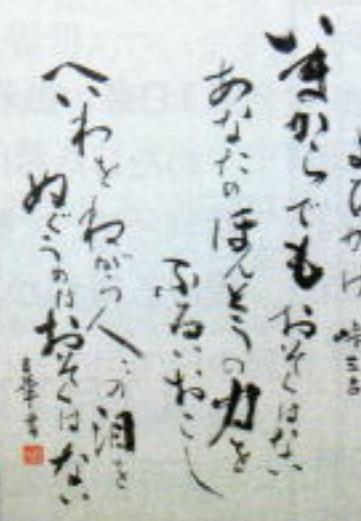
途中、黒塗りに日の丸がついた街宣車が何台も大音声で怒鳴り散らして妨害してきました。私は音量のすごさと言葉の汚さにビックリしましたが、隣の方が「あの人達は人を怖がらせて、アピールを止めさせようとしているのよ」と言ってニコッと笑われ、歩を変えることなくゆっくりと歩いていました。余裕さえ感じるその姿に市民の意気の骨太さを感じました。

南国の香りのする鹿児島を歩いて、美しい桜島を眺めていると、人間の命や自然は無償で神からいただいたものだと実感しました。もしこれ以上、原発事故によって取り返しのつかない放射能汚染が広がるならば、それは私たち愚かな人間の責任ではないでしょうか。小さな空の手しか持たない私たちですが、子どもたちのためにも原発を廃止して、安心なエネルギーで暮らせることを心を合わせて歩んでいきたいと思いました。

平和のための

戦争展

見てきました。
10月20日~25日



左写真の「よびかけ」に、思わずシャッターを切りました。今、切実さをもって多くの平和を願う市民が声をあげ行動しています。アベ政治を許さないと、学者も若者もママパパ、中年、戦争体験者も、戦後を戦前にしないために後悔したくないと、自分の判断で立ち上がってています。ここに明日への希望を感じています。戦争展の展示コーナーは多彩でした。(戦争遺品展、中学生のための従軍慰安婦展、原爆と原発展、故村瀬守保中国戦線写真展、北九州の空襲展、野中将男中東写真展、西山進平和漫画展、成富茂絵画展。)

一点一点が観る者の心に訴えかけていました。戦争とは…平和とは…そしてあなたは…と。



いくさば とうどう 戦場ぬ止み ドキュメンタリー 映画の感想 10月12日

オール沖縄からオールジャパンへ

10月上旬、北九州市内で上映された「戦場ぬ止み」には、680人を越える市民が参加しました。その内、八幡西区の会場(子どもの館)では320人が来られ、感想など寄せられました。

- 友人と3人で観ました。県民を守るはずの警察官が85歳の女性を突き飛ばし怪我をさせるなど辺野古新基地建設に反対する人たちに、悪しき権力の横暴が映し出されていました。しかしながら怒り悲しみ苦しみがあるにもかかわらず、笑ったり、踊りも忘れない人間の真の強さを感じました。一緒に行つた友人は沖縄の現状を話しても「それ、本当?」、観賞後は「やっとあなたが言ったことがよくわかった。とっても勉強になった」と言いました。通常のマスコミ情報だけだと騙されますね。最近の日本は、過去の戦争が起きる前の空気によく似ていると体験者が語るのを耳にします。国民が団結しなければと強く思います。来月の三上智恵監督の講演にも行く予定です。沖縄のことを気にかけていたのですがようやく一步が踏み出せたことに感謝しています。(福岡から参加の30代女性)
- 映画を観て、日本国民を守ることより米国を大事にしようとする安倍政権に強い憤りを覚えました。これからも辺野古基地建設に反対の声を上げ続け、自分にできることを探していきたいと思います。(宗像市 60代男性)
- 《60代スタッフから》
私がさそった元教員(70代男性)が会場から出てきた時、なんだかうかぬ顔つきをしていました。一体どうしたのかなと思い、「いかがでしたか?」と声をかけたら、「いま何も話せない。しゃべると涙が出そうなので…」と。彼のその一言で「戦場ぬ止み」が伝えようとする内容が胸に響いてきたんだなあ、この上映会を取り組んでよかったと素直に思いました。(八幡西 1)

三上智恵監督の講演会

(当日券有ります。 800円)

とき: 11月1日(日) 14時~

開場は13時30分

ところ: 商工貿易会館2階

小倉北区馬借

ジャーナリスト。95年に琉球朝日放送開局と共に沖縄に移り住む。キャスターを務めながら多数の番組を制作。初監督映画「標的の村」はギャラクシー賞テレビ部門優秀賞、キネマ旬報文化映画部門1位、山形国際ドキュメンタリー映画祭監督協会賞・市民賞ダブル受賞など17の賞を獲得。

《アムネスティ》下関通信 (No. 19)

11月1日、3年ぶりに持たれる日中韓首脳会談を前に、「慰安婦問題」正念場、との声が聞かれます。被害女性生存中の解決が当初よりの悲願でした。

10月12日福岡で、「私を忘れないでほしい～“慰安婦”と呼ばれた女性たち」(主催、戦後70年企画実行委)のドキュメンタリー映画(班忠義監督「太陽がほしい」、土井敏邦監督「記憶と生きる」)と各講演を聞きました。

二監督共通の動機は、「“慰安婦”をマス(集団)でとらえる間は被害女性一人一人の真実は見えにくい。彼女たちを20年間撮り続けた膨大な取材フィルムの中で、次々に亡くなっていた被害女性一人一人の人生を伝えるのは自分たちの使命」(各々3時間余に編集)。

今は亡き関釜裁判原告の懐しい朴頭理さん、6月の下関アムネ行事でも紹

介された中国の方愛花さん、「慰安婦」絵画で著名な姜徳景さん等々、鮮やかに残された遺言の数々。例えばナヌムの家の床に車座になっての雑談合意、「私たちは生娘のまま“慰安婦”にされた。アジア女性基金なんかもらえば本当の売春婦になる」。生涯決して忘られぬ悪夢の記憶がまとい続く中、何としても人間の尊厳をとり戻すべく、死の床まで日本政府に訴え続けた人生。今やこちらが心耳を開けば、歴史の未来からでさえ語り出されるだろう見事な存在感に。

班さんは講演で「戦前返りの日本、今度は13億の中国と闘う積り? 輸出すべきは平和憲法」。土井さんは「被害女性一人一人の“顔”と向き合うこと、まず自分が変ること」。アムネスティ「慰安婦」チーム初め、彼女たちを決して忘れない世界中の人々の輪が強められますように。
(2015.10.26 アムネ下関、山県)



消費税と人権・平和を考える

(10)

安永 亮 税理士事務所

安永 亮 所長



今回は、消費税の逆進性について考えます。

逆進性とは、所得の少ない人ほど消費税の負担が実質的に重くなるということです。

そもそも消費税は「薄く広く負担する公平な税制」として導入されたのに、なぜ逆進性の強い税金なのでしょうか？

なぜなら、消費税が所得の大小は無視して、同じ消費行動に対して同じ税率で課税することを「公平」と考える税金に過ぎないからです。同じ物を買えば誰でも同じ負担額ですから、所得に対する負担率が逆進的になるのは当然で、一般消費税の持つ本質であり、消費税導入時から分かりきった事です。だから戦後ずっと反対運動が続いてなかなか導入出来なかつたのですが、国民の意識が変化したのか、導入を許してしまいました。3%ぐらいだし、国にお金もないし、このくらいなら仕方ないと考えたのかもしれません。今でも消費税率引き上げの時のインタビューで「うちには負担出来ますから大丈夫です」という意見を聞くと、逆進性についてどう考えているのだろうかと思います。

具体的に考えてみましょう。消費税はお金の使い方…例えば、土地や有価証券の購入、生命保険料の支払いなど…によってはかかりません。

Aさんは、配当金や株の売却収入を中心に年収10億円です。生活費等で3千万円、残りを租税公課や保険料の支払い、株や投資信託、土地の購入、預貯金に使っています。Aさんの収入に対する消費税負担率は、240万円÷10億円=0.24%です。

Bさんは、年収400万円で生活費等は240万円です。Bさんの消費税負担率は、19万2千円÷400万円=4.8%です。



Cさんは、年金120万円で、生活費等は180万円です。Cさんの消費税負担率は、14万4千円÷120万円=12%です。

Dさんは、無収入で、毎年80万円の預貯金を取り崩して生活しています。Dさんの消費税負担率は、6万4千円÷0円=∞(無限大)%です。

自分がAさんに近いのかCさんやDさんに近いのかによって消費税の負担率は、まったく異なります。したがって消費税に対する考え方も異なるでしょう。消費税は消費にかかる税金ですが、CさんやDさんのように預貯金を生活費に回さざるを得ない状況ですと、預貯金自体に課税されているに等しい税金ともいえるでしょう。

消費税が所得の低い人たちにいかに過酷な税金であるか、一目瞭然です。こんな税制を「薄く広く負担する公平な税制」などと主張して、さらに税率を引き上げるなど言語道断です。

さすがに自公政権も、10%引き上げ時には所得の低い人たちの負担に配慮しなければならないと考えているようですが、**一般消費税の持つ強い逆進性は、消費税が「所得の大小を無視して、同じ消費行動に対して同じ税率で課税する」ことが原因なのですから、どのような手を打とうとその本質は変わりません。**

税率引き上げ反対の声を抑えるために、少しでも増税感をやわらげようと対策に必死ですが、同じ物を買って所得の低い人の負担額だけが少なくなる妙案など一律税率の一般消費税にあるはずがなく四苦八苦しめています。

次回は、逆進性を緩和するかのように提案される政策について考えてみましょう。

大村入管センター　面会ボランティアの体験

(A. K.)

昨年12月から入管面会ボランティアの機会をいただき、福岡市在住の行政書士、司祭、ベトナム人シスターと大村入管センターを訪れています。大村入管に収容されるのは男性のみです。

今まで、中国・ベトナム・スリランカ・イラン・ナイジエリア等、言語・宗教の枠を超えて様々な国の収容者と面会しました。彼らは、超過滞在(オーバーステイ)や刑罰法令違反で刑期を終えて、ヴィザが切れたため入管に送られてきました。仮放免申請をして日本滞在を希望していますが、申請するためには、保証人と保証金が必要です。ただ、仮放免申請許可が下りて日本で生活することになっても、就労は許されず、収入を得ることはできないという厳しい現実が待っています。面会の時は、言葉がけに慎重になります。「貴男を大切に思っていますよ。」という心を持って接するよう努めます。

ある時、安易さから薬物に手を染め、刑務所に入り、家族とも離れ離れのまま入管センターに送られてきた収容者に面会しました。自分を悔い、やり場のない孤独さの中、幼い娘を想う彼の辛い気持ちが私の心に響き涙しました。「人間の尊厳とは？」考えさせられ、学ぶ貴重な機会をいただいています。

90円盗られたよ (Nさんの話)

Nさんは95才のおばあちゃんです。黒崎からタクシーに乗って目的地へ。“910円です”と運転手。おばあちゃんは、まず千円を渡してから、また10円を渡そうと財布の小銭入れをゆっくり開けたとたん、運転手が「今釣り銭をやったやろうが！」と大声で怒鳴ったので怖くなりタクシーを降りました。

(お店の方がガラス越しにその様子を見ていきました)「あの運転手に90円盗られたよ。年寄りに親切にするのかと思ってたら違ったね。やっぱり慣れたタクシーがいい。」話す言葉もしっかりとしているNさん、長生きしてね。

温故知新(りつ)

95歳の方に質問。「戦争が起きた前の日ってどんな日でした？」「まったく普通と変わりない静かな日やった。だから突然の戦争にびっくりしたのを覚えてる。戦争はね突然おきるんよ。」



60号おめでとうございます (T)

「共に生きる」連続5年発行しましたね。ささやかですけどケーキをプレゼントしました。ぜひこれからも続けてくださいね。でも「共に生きる」を



発行し続けるには経費がかかるでしょう。いまはカンパ収入が主だそうです。財政状況を尋ねましたら、もう底をつく状態。みなさん、協力しませんか。

11/23(月)14時～「ニッコリしようパレード」にご参加を!

JR下関駅近くの竹崎公園

私たちは人間の尊厳を守るためにいかなるレイシズム(人種差別)にも反対し、民主主義と憲法を活かし、排外主義に陥らず、近隣の国々との平和外交を求める。また、すべての国の人たちと仲良くして、共に平和に生きていくことを求めます。

在日コリアンは、マイノリティーであるが故に不当に戦後70年間、差別を受け続けてきました。私たちは在日コリアンと共に、非戦・平和の思想で、すべての人びとの人権が大切にされる下関市、山口県、そしてこの国をつくりたいと思います。「ニッコリしようパレード」で一緒に声を上げましょう。(呼びかけ文より)

- 13:00受付 テントで物販、展示物あり
- 14:00集会開始 アピール、リレートーク
3・1文化祭・農楽(サムルノリ)朴カンヌ一座、
山本紀久代ギター演奏
- 15:00 パレード出発 1時間くらい

出会い (Y)

臨済宗瑞陽寺の寺庭Iさん、浄土真宗常光寺のI住職とその寺の総代Fさん、天理教分会長のSさん、実家が神道のKさんたちと山口市で初顔合わせを行った(キリスト教会と教団牧師2人は所用のため欠席)。他にその場に居合わせたのは日本共産党県委員のメンバーと県会議員など。実は12月に山口市内で宗教者と共産党の懇談を計画しており、その実行委員会に私は誘われた。安倍首相の祖父の出身地(長門)で浄土真宗本願寺派山口教区(16寺の)大津西園組長が、安倍総理あてに安全保障関連法案に反対し、廃案を求める要望書を出したことを7月29日の国会で小池晃(共産党)議員が紹介した。それが地元で大反響となり、宗派の立場の違いを越えて平和の問題に共産党とも向き合おうとなつたようだ。

会が終って、瑞陽寺の寺庭Iさんがご自分の本を下さった。「あんたはあんたのままでいい 寺庭奮闘記」。後日読んでみると実におもしろい。臨済宗妙心寺派の管長河野太通師が「こんな寺庭さんが十人ほど全国にいてもらいたらわが宗門は一変するよ」と書評。たまたま隣り合わせに座ったことで78歳のIさんと出会えた。これを大切にしてゆきたい。

「働く人102号」できました

年2回発行のACO(カトリック労働者運動)の機関紙「働く人102号」が完成。“労働運動からみる戦後70年”として特集を組みました。職業病との闘い、戦後労働運動の考察、障害者の立場の変遷、結核による職場からの排除問題等々内容豊富です。

写真は昨年の様子



- ・国連人権機関は度重なる差別是正勧告を出しました。
(朝鮮学校高校無償化すること、助成金復活を、ヘイトスピーチ禁止)
- ・日米安保体制強化よりも近隣国との平和外交が求められています。

主催:ニッコリしようパレードin下関 実行委員会

お問合せ090-4898-0128/yksalan2010@ae.auone-net.jp

東アジアの平和と福音的展望

韓国国民1%の濟州島民と東アジアの平和実現を夢見ながら



カトリック韓国濟州教区長

カン・ウイル司教

※文責／編集部

(13)

〔ベトナム戦争と韓国〕(3)

1998年3月、ピースボートに400名が乗船し、その中に韓国の市民団体や個人が初めて招待を受け、10余名が参加しました。キム・ヒヨナ(金賢娥)さんの「戦争の記憶・記憶の戦争」という本によりますと、ピースボートは中国を経てベトナムのダナンに停泊しました。一部の日本の参加者と韓国の参加者が「ベトナム戦争と韓国軍」というコースを選びました。韓国の参加者たちは、このバスで自分たちがどんな話を聞くことになるのか全然わかりませんでした。そしてクアンナム省ディエンバン県という所で参加者たちはベトナム人から韓国軍の民間人虐殺事件の話を初めて聞くことになりました。1967年1月、韓国軍海兵隊によつて3、340人の民間人が殺害され、1、734世帯が被害を受けたというベトナム人の証言でした。韓国の参加者たちは、みな初めて聞く話で非常に困惑しました。とても信じられない話を聞き、彼らは、これは本当なのか検証したくなりました。そして直接行つてみると、これは本当のかなと思いました。彼らの真実を求めての旅が、韓国国民のベトナム戦争への認識を大きくゆさぶる原因となりました。そして少規模ではありますがNGOや個人たちが、韓国軍がベトナムでおこなつた非人間的な犯罪に謝罪し償いたいといふ気持ちで、ベトナム各地で真相をさらに調べたり、訪ね歩いていきました。このような小さな努力が犠牲者たちの家族やあの惨劇から逃げ延びた人たちとの赦しの出会い、そして癒しの始ま

りになつたのではないかと思います。私自身も数年前までこのような内容をほとんど何も知りませんでした。こういう資料に具体的に接し、本を読みながら私も多くのショックを受けました。こういうことを知つた後、私はベトナム人に会うと深い罪責感と恥ずかしさで顔を上げることができませんでした。そして何としても私たち韓国人同胞がベトナム人になした残した。そして何としても私たち韓国人同胞がベトナム人になした残酷で非人道的な行為を謝りたいと思いました。2012年12月、ホーチミン市の北で開かれたアジア司教会議連合会の総会に参加した折、私は韓国のカトリック教会を代表してベトナムの方々に謝罪をしました。そして機会あるごとに韓国同胞たちにこの悲しく恥ずかしい真実を知らせていくこと心に決めています。ただ悲しいことにまだ韓国内では、ベトナム戦争に参戦したことを、共産主義権滅と世界の自由と平和を守るために命がけで戦つたのでそれがなぜ悪いのか、国家にいわれて戦つた兵士たちの苦労と献身を踏みにじる行為をするな、という反発もまだかなり残っています。

〔国家を越えて—私たちの使命〕

このよう歴史体験を振り返ると、国家が人間と個人の人権をどれほど思うままに踏みにじってきたかがわかります。自分の国でもないのに外に行き、自分たちに何の敵もいないのに外で無差別に殺害する権限を一體誰から与えられたのか。それは全く何の正当性も合法性もない、認められない国家権力の暴挙と犯罪であると言うしかありません。こういう國家の不法な介入、陰謀、政策が政府そのもので…(続く)

編-集-後-記

11月1日、日中韓首脳会談が予定されています。この3国間では経済、文化交流がすすんでいますが、最も遅れているのが政治交流。なぜか、それは歴史を偽造し、また覆い隠そうとする勢力が政治の中核にいるからです。朝鮮半島の植民地化を[△]当時は合法、侵略戦争は[△]正義の戦争、南京大虐殺や日本軍「慰安婦」は[△]でっちあげ[△]。こうなると政治交流はますます溝が深まります。戦後70年節目の日中韓首脳会談ならば、まず日本政府が侵略戦争を認め、慰安婦問題にも誠意をもって被害者に向き合うことで、政治交流が平和交流に発展します。(瀬下)